

諏訪の景気動向

平成18年 11月

(平成18年10月末D・調査)

平成18年11月14日

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成 18 年 10 月末）

「平成 18 年 10 月末アンケート調査および企業訪問ヒヤリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

当金庫が諏訪地方 205 社のご協力を得て行った 10 月末の「景気動向調査」からみた地域の景況は、「3ヶ月前」と比べ業況判断 D I は全体で 1.0 ポイントと前回調査時から横這状況となっている。

製造業の業況判断 D I は 1.3 ポイントで業況が好転した企業が 15.6%みられるが、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の業況判断 D I は 7.8 ポイントと業況が悪化した企業が多くなっている。

商業は、高温の日が続き秋物衣料品などの売行きが低調であるなど、業況が悪化した企業が多く業況判断 D I は 16.7 ポイントとなっている。

観光は、秋の行楽シーズンを迎え宿泊客が増加したところがみられるが、「集中豪雨」の穴埋めが出来ないところも多く、前年同期比の業況判断 D I は 50.0 ポイントとなっている。建設業は、受注が増加した企業が幾分増加し業況判断 D I はマイナス幅が若干縮小した。

製造業の業況は「好転」15.6%・「悪化」14.3%で、業況判断 D I は 1.3 ポイントと前回調査時の 10.0 ポイントに引き続き回復している。

「3ヶ月前」と比べての受注状況 D I は 2.0 ポイントとなっている。規模別にみると、従業員数 100 人以上企業の受注動向 D I は 9.1 ポイント、30 人から 99 人企業及び 29 人以下の企業の受注状況 D I はいずれも 0.0 ポイントで企業規模により受注状況に変化がみられる。

業種別では電気機械に受注が減少した企業が多く、受注状況 D I は 16.7 ポイントとなっている(前回調査時受注状況 D I 13.3 ポイント)。一般機械、輸送用機械などに受注が増加した企業が多くみられるが、一方で減少した企業も多く受注先により受注状況は区々となっている。「3ヶ月後」の受注予想は一般機械、輸送用機械に受注増加を予想する企業が多く、精密機械、電気機械、金属製品などでは減少するとみる企業が多い。全体の「3ヶ月後」の受注予想 D I は 1.4 ポイントで先行き慎重な見方が多くなっている。(本年 4 月の 14.4 ポイントをピークに 7 月は 6.8 ポイント)

ヒヤリング調査からは、産業機械や自動車関連企業は引き続き堅調な見方が聞かれたが、デジタル家電、IT 機器などは世界市場での競争激化から慎重な見方が窺えた。

商業は、10 月中旬以降の平均気温が平年を上回ったことから、一旦動きをみせた秋物衣料の動きが止まった。食料品は、果物や野菜などが売れ行きを戻したが、激しい店舗間競争で来店客が減少し客単価も伸びず苦戦する店舗がみられた。家電製品では、引き続き薄型 TV が順調な売れ行きをみせている。ホームセンターは、球根などの園芸資材や季節の生活雑貨に動きがでている。

商業全体の「3ヶ月前」と比べての業況判断 D I は 16.7 ポイント、「前年同期比」の業況判断 D I は 44.4 ポイントと低調に推移している。

観光・サービス業は、秋の行楽シーズンを迎え観光地の入り込みは多く各地のイベントも賑わいをみせた。宿泊客が増加したところがみられるが、「7月の集中豪雨」の穴埋めが出来ないところも

みられた。観光・サービス業における「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは0.0ポイントとなっているが、「前年同期比」では50.0ポイントとなっている。

建設業は、新設住宅・工場増設や小規模の災害復興工事などみられるが、受注環境に大きな変化はみられず厳しい状況が続いている。

製造業の収益性は、受注環境に幾分弱りがみられる中で原材料の値上がりや受注単価の引き下げなどが続き、収益性DIは再びマイナス幅が幾分拡大した。中小企業の収益は、上場大企業の収益回復に連動せず、実感としての「いざなぎ景気超え」の景況感は見られない。非製造業は、商業、観光・サービス業などで気温の低下しない天候の影響や7月の集中豪雨の影響が残っている。また、建設業も低調な受注環境から引き続き収益性に回復感は見られない。

雇用状況は、9月の諏訪地方の有効求人倍率は諏訪職安・岡谷職安合わせて1.37倍で平成15年10月から36ヶ月連続して1倍台を維持しており雇用環境は安定している。

新規求人は、諏訪・岡谷職安合わせて1,707人で前年同月比2人と0.1%の減少。新規求職者数は、776人で前年同月比154人と大幅に減少している。

業況判断DIの推移（3ヶ月前と比較して）

今回調査の回答全社（205社）の「3ヶ月前」と比べての業況は、好転とする企業が15.1%・悪化とする企業が16.1%で業況判断DIは1.0ポイントと横這い状態となっている。

製造業の業況判断DIは1.3ポイントで前回調査時に続き回復しているが、受注状況DIは2.0ポイントと2期ぶりに減少に転じている。主要5業種では、電気機械器具製造業の受注状況DIが16.7ポイントと前回調査から大幅に悪化している。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断DIは7.8ポイントで、前回調査時よりもマイナス幅が拡大した。

産業別業況表

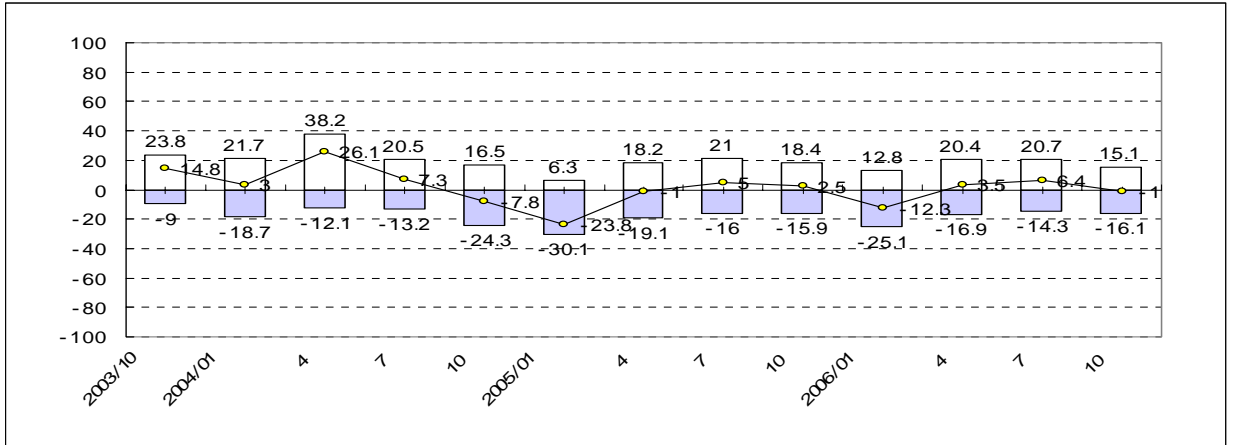
（企業数・%） 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	D.I	回答企業	好転	横這	悪化	D.I	回答企業	好転	横這	悪化	D.I
全体	205	15.1	68.8	16.1	-1.0	205	23.4	50.7	25.9	-2.4	201	14.9	71.1	13.9	1.0
製造業	154	15.6	70.1	14.3	1.3	154	27.3	53.2	19.5	7.8	151	13.9	76.2	9.9	4.0
非製造業	51	13.7	64.7	21.6	-7.8	51	11.8	43.1	45.1	-33.3	50	18.0	56.0	26.0	-8.0
商業(大型店)	18	5.6	72.2	22.2	-16.7	18	11.1	33.3	55.6	-44.4	17	11.8	58.8	29.4	-17.6
建設業	15	13.3	66.7	20.0	-6.7	15	20.0	60.0	20.0	0.0	15	13.3	80.0	6.7	6.7
観光・サービス	18	22.2	55.6	22.2	0.0	18	5.6	38.9	55.6	-50.0	18	27.8	33.3	38.9	-11.1

自社業況判断DIの推移(「3ヶ月前」と比べて)

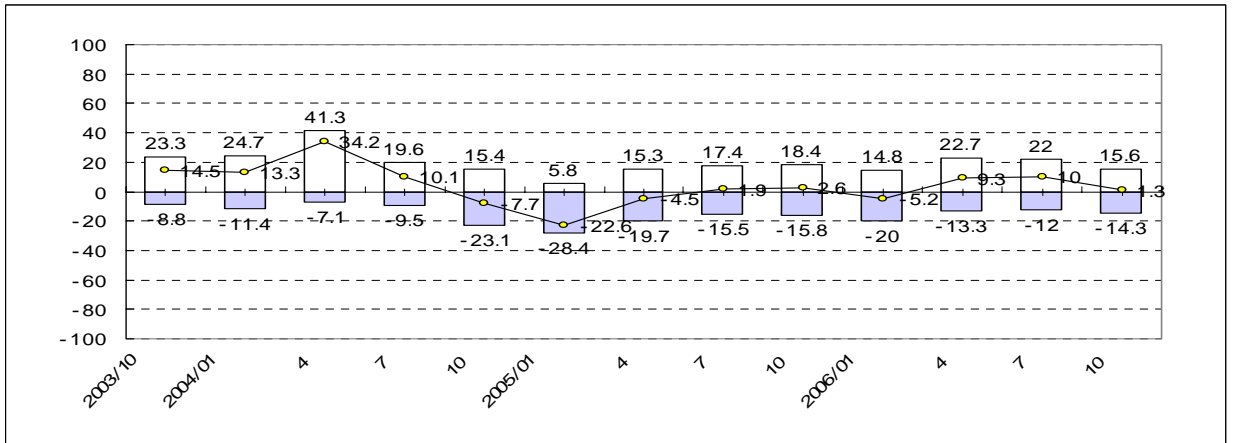
回答全社

グラフ - 1



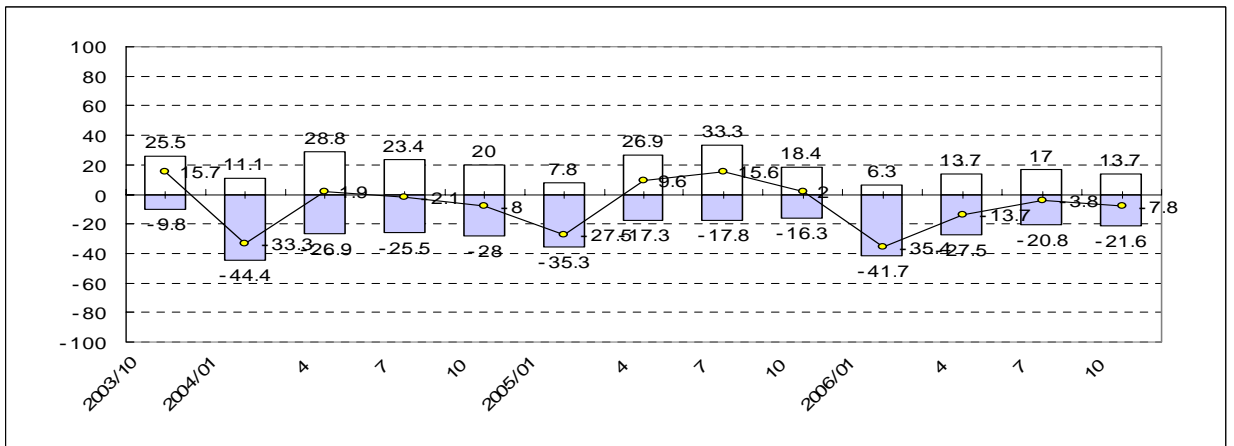
製造業

グラフ - 2



非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)

グラフ - 3



産業別景気動向

1.製造業

製造業の業況判断DIは1.3ポイントで前期に続きプラスとなった。好転した企業が15.6%みられるが、悪化した企業も14.3%と同水準で親企業により区々となっている。収益性は18年4月末の調査時に8期ぶりに好転企業が悪化企業を上回ったが、今回調査でも原材料の高騰や受注減少企業が増えたことなどから収益性DIのマイナス幅が広がった。

規模別では1人～29人企業に業況好転企業が多く、30人～99人企業は横這とする企業が70%を占め、100人以上に業況悪化企業が多くみられる。「3ヶ月後」の予想では全社で13.9%の企業が業況が好転すると予想しているが、100人以上企業では業況が悪化とみる企業が18.2%みられる。100人以上企業の予想業況DIは15.2ポイントとなっており慎重な見方が多くなっている。

デジタル家電、IT機器は大手メーカーの激しい競争が続いており下請企業の業況は区々となっている。電気機械の「3ヶ月前比」業況判断DIは6.7ポイントで、前回調査時の16.7ポイントに比べ業況の悪化した企業が増えている。

地域製造業の業況判断DIは1.3ポイントで、全社では70.1%の企業が「横這」としており前回調査時に引き続き業況は回復している。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表 - 2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	D・I	回答企業	好転	横這	悪化	D・I	回答企業	好転	横這	悪化	D・I	
製造業	154	15.6	70.1	14.3	1.3	154	27.3	53.2	19.5	7.8	151	13.9	76.2	9.9	4.0	
規 模	1～29人	73	20.5	64.4	15.1	5.5	73	17.8	57.5	24.7	-6.8	72	19.4	72.2	8.3	11.1
	30～99人	48	14.6	70.8	14.6	0.0	48	33.3	56.3	10.4	22.9	46	13.0	80.4	6.5	6.5
	100～人	33	6.1	81.8	12.1	-6.1	33	39.4	39.4	21.2	18.2	33	3.0	78.8	18.2	-15.2
中 分 類	金属製品製造業	21	9.5	71.4	19.0	-9.5	21	28.6	52.4	19.0	9.5	21	0.0	95.2	4.8	-4.8
	一般機械器具製造業	42	21.4	59.5	19.0	2.4	42	16.7	61.9	21.4	-4.8	40	17.5	75.0	7.5	10.0
	電気機械器具製造業	30	10.0	73.3	16.7	-6.7	30	33.3	50.0	16.7	16.7	30	10.0	66.7	23.3	-13.3
	輸送用機械器具製造業	16	25.0	68.8	6.3	18.8	16	43.8	37.5	18.8	25.0	16	25.0	75.0	0.0	25.0
	精密機械器具製造業	15	6.7	86.7	6.7	0.0	15	26.7	46.7	26.7	0.0	14	21.4	57.1	21.4	0.0

諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

金属製品（プレス、メッキ、熱処理など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは9.5ポイントとなっている。好転した企業は9.5%みられるが、悪化した企業が19.0%と前回調査時から9%増加し業況は幾分悪化している。

「3ヶ月後」の予想業況DIは4.8ポイントで「横這」とみる企業が95.2%となっており、先行きの見方は幾分弱含みとなっている。

一般機械（工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断D Iは2.4ポイントで、好転した企業21.4%・悪化した企業19.0%で全体としては堅調に推移している。

電気機械（家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど）

「3ヶ月前」と比べ業況が悪化した企業が16.7%、好転した企業が10.0%で、業況判断D Iは6.7ポイントとなった。「3ヶ月後」の予想業況D Iは13.3ポイントで、横這いと予想する企業が66.7%みられるが、悪化と予想する企業も23.3%あり先行きは幾分弱含みとみている。

輸送用機械（自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断D Iは18.8ポイントで、好転した企業25.0%・横這の企業68.8%で、受注単価は厳しいものの受注量が増加し業況は安定している。

精密機械（時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など）

「3ヶ月前」と比べて業況判断D Iは0.0ポイントとなっているが、高水準の生産状況が続き堅調に移している。一眼レフ鏡枠加工などの受注は引き続き増加している。

他の製造業

業種により区々となっており、非鉄金属・プラスチック工業などに業況好転企業がみられる。

規模別業況

製造業の規模別業況判断D Iは1人～29人企業5.5ポイント、30人～99人企業0.0ポイント、100人以上企業6.1ポイントで企業規模により業況が分かれている。

「3ヶ月後」の業況の予想では規模の小さな企業に好転すると予測する企業が多くみられ、100人以上企業では慎重な見方の企業が多く予想業況D Iは15.2ポイントになっている。

業種別・規模別受注状況

製造業全社の受注状況は、「3ヶ月前」と比べ増加企業21.1%、減少企業23.0%で受注減少企業が幾分増えており、3期ぶりに受注状況D Iはマイナスとなった。（2.0ポイント）

規模別の受注状況はいずれの規模も「不変」が一番多いものの、100人以上企業に受注減少企業が増えており、100人以上の企業の受注状況D Iは9.1ポイントとなっている。29人以下企業の受注状況は区々で、受注状況D Iは0.0ポイントとなっている。全社の「3ヶ月後」の予想D Iは1.4ポイントと受注増加を予想する企業が幾分多くなっているが、100人以上企業では27.3%の企業が受注減少を予想している。

主要5業種では「3ヶ月前」と比べ受注状況D Iは、輸送用機械、精密機械がそれぞれ6.7ポイントとなっているが、電気機械は16.7ポイントで幾分翳りがみられる。5業種全体では1.6ポイントとなっている。「3ヶ月後」の予想受注状況D Iは1.7ポイントで、受注減少と予想する企業が16.9%みられ、なかでも精密機械、電機機械に受注が減少するとみる企業が増えている。

業種別・規模別受注状況表

表 - 3

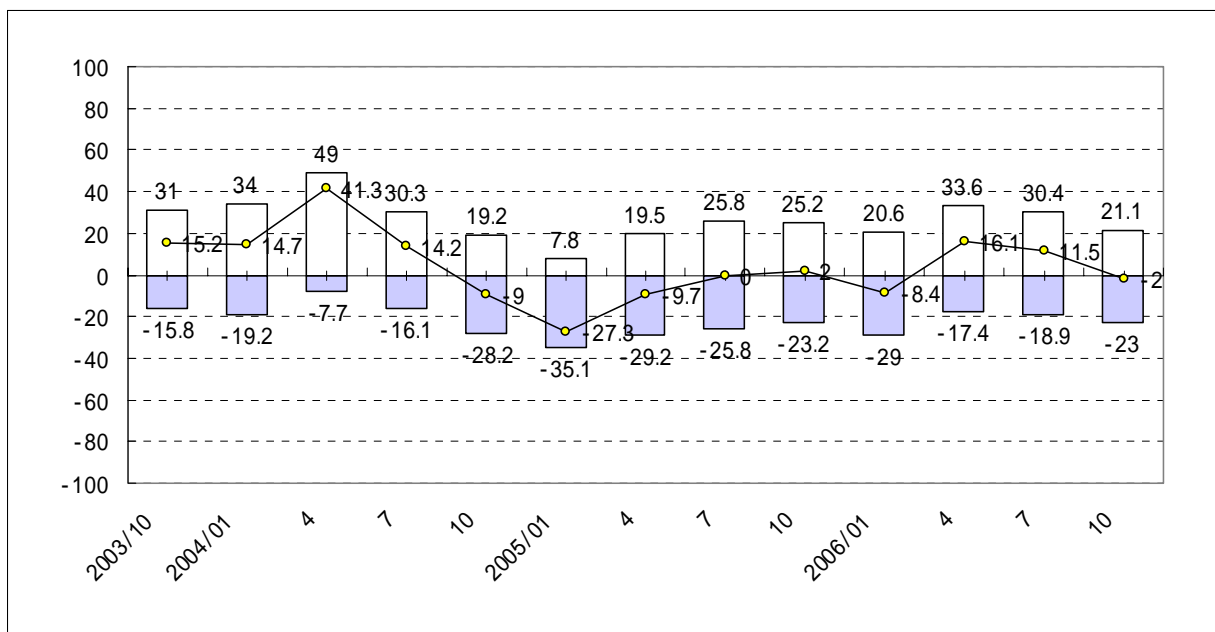
	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答 企業	増加	不変	減少	D・I	回答 企業	増加	不変	減少	D・I	回答 企業	増加	不変	減少	D・I	
製造業	152	21.1	55.9	23.0	-2.0	152	31.6	43.4	25.0	6.6	148	17.6	66.2	16.2	1.4	
規 模	1～29人	72	23.6	52.8	23.6	0.0	72	19.4	50.0	30.6	-11.1	71	18.3	66.2	15.5	2.8
	30～99人	47	21.3	57.4	21.3	0.0	47	40.4	44.7	14.9	25.5	44	22.7	68.2	9.1	13.6
	100～人	33	15.2	60.6	24.2	-9.1	33	45.5	27.3	27.3	18.2	33	9.1	63.6	27.3	-18.2
中 分 類	金属製品 製造業	21	19.0	66.7	14.3	4.8	21	33.3	47.6	19.0	14.3	21	9.5	71.4	19.0	-9.5
	一般機械 器具製造業	41	26.8	46.3	26.8	0.0	40	27.5	50.0	22.5	5.0	39	20.5	71.8	7.7	12.8
	電気機械 器具製造業	30	13.3	56.7	30.0	-16.7	30	33.3	40.0	26.7	6.7	30	13.3	56.7	30.0	-16.7
	輸送用機械 器具製造業	15	26.7	53.3	20.0	6.7	16	43.8	18.8	37.5	6.3	16	25.0	68.8	6.3	18.8
	精密機械 器具製造業	15	13.3	80.0	6.7	6.7	15	20.0	53.3	26.7	-6.7	12	0.0	75.0	25.0	-25.0

製造業全社の受注状況DIの推移

全社

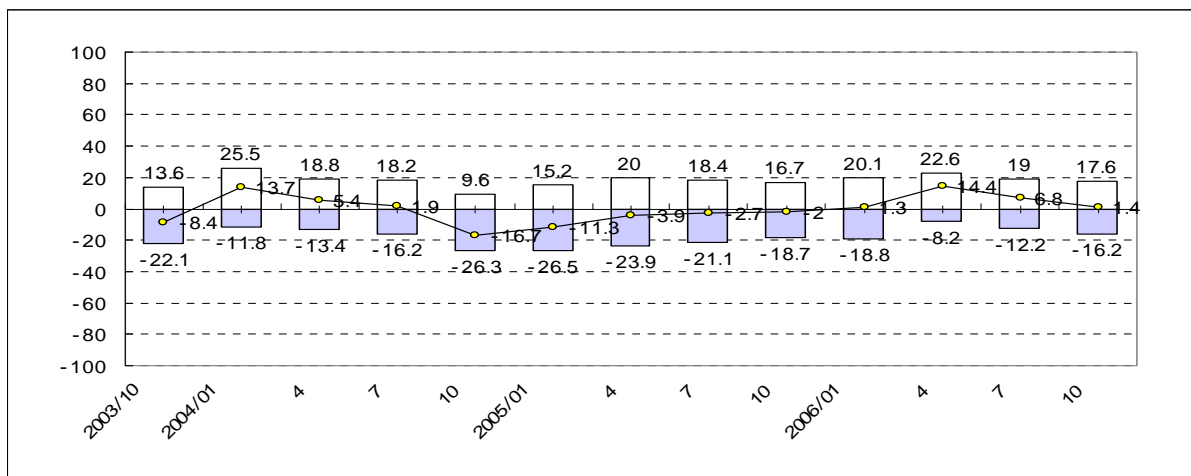
「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 4



「3ヶ月後」の予想

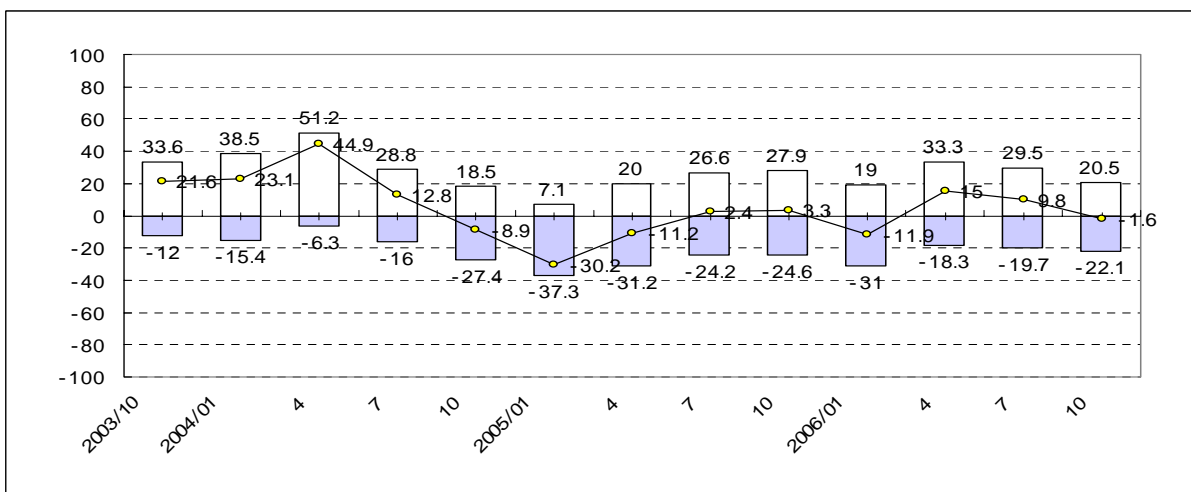
グラフ - 5



5業種の受注状況DIの推移

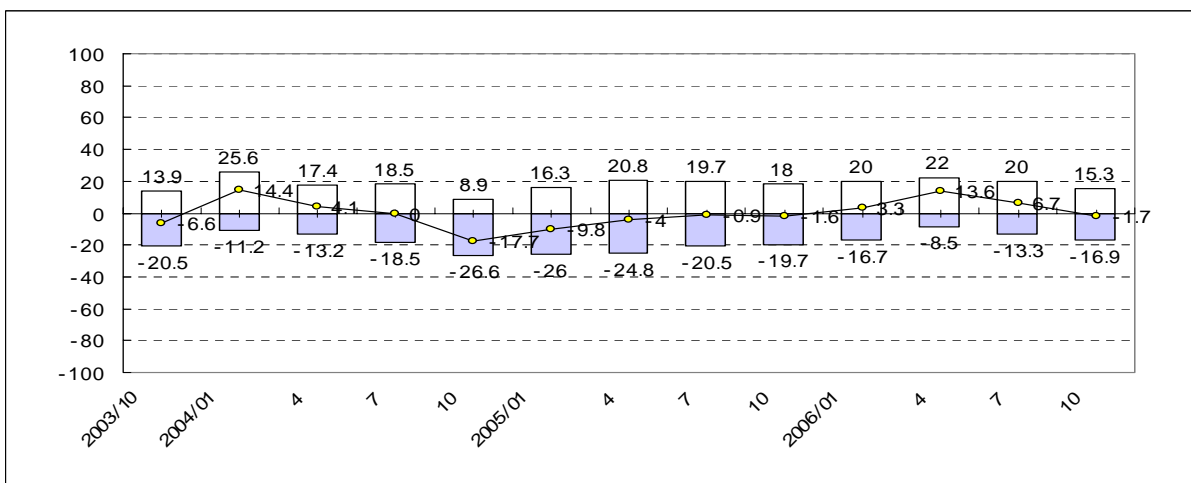
「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 6



「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフ - 7



2.商業・観光サービス業

商業

9月から10月初旬は朝夕の気温が下がり秋物衣料品に動きが出始めたものの、10月中旬以降は朝夕の気温が平年を上回り秋物衣料品の動きが止まるなど、天候の影響を受けた店舗が見られた。

特別企画などで集客効果がみられた店舗や扱い商品により来店客が増加した店舗がみられるが、回答全社の業況DIは16.7ポイントとなっている。

食料品 季節の果物や価格の安定した野菜などの売れ行きは好調だったものの、店舗間での価格競争が激しく客単価は伸びていない。

衣料品 秋物衣料品の動きが低調で前年割れの店舗もみられるが、七五三の晴れ着など例年並みの売れ行きの店舗がみられる。

ホームセンター 好天の日が続き、球根類など例年を上回る売れ行きの店舗もみられ、季節の生活雑貨などにも動きが出ている。

職人向け専用商品は、安定した動きとなっている。

大型家電店 薄型大型TVは順調な動きを見せているが、平均気温が平年を上回り暖房器具などの動きが低調となっている。

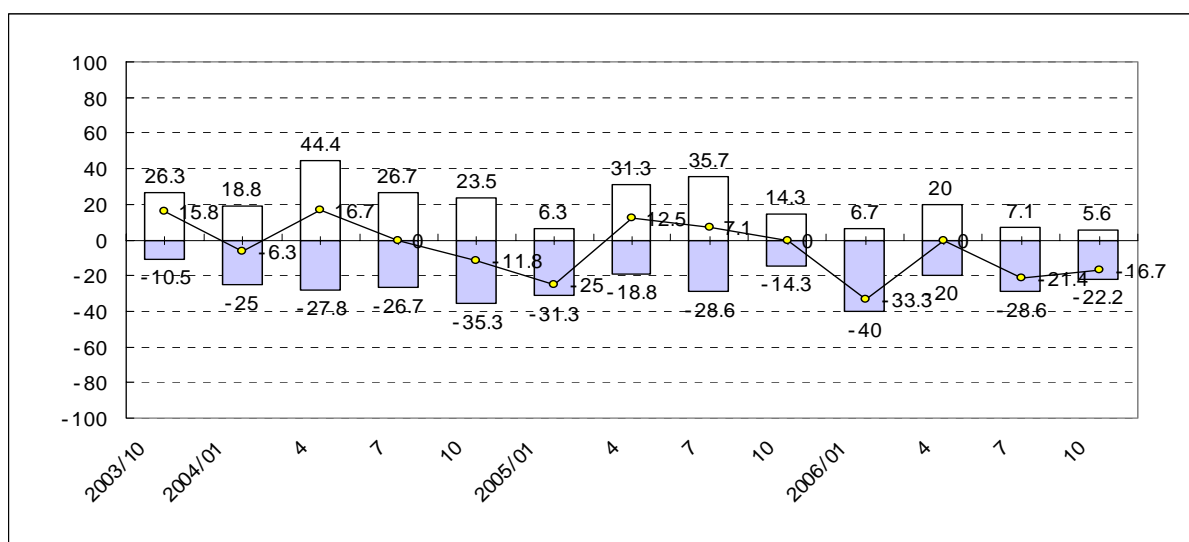
業況、客単価、来店客数

表 - 4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	18	5.6	72.2	22.2	-16.7	18	11.1	33.3	55.6	-44.4	17	11.8	58.8	29.4	-17.6
客単価	18	0.0	77.8	22.2	-22.2	18	0.0	61.1	38.9	-38.9	18	5.6	66.7	27.8	-22.2
来店客数	18	22.2	22.2	55.6	-33.3	18	27.8	16.7	55.6	-27.8	18	38.9	27.8	33.3	5.6

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 8



観光・サービス業

秋の行楽シーズンを向かえ、天候にも恵まれ観光地は入り込み客で大変な賑わいであった。地域の宿泊施設は宿泊客が増加したところがみられるが、7月の集中豪雨の影響から団体客が減少したままで予定客数を割り込んだところもみられるなど業況は区々で、「3ヶ月前」と比べ業況判断DIは0.0ポイントとなっている。

宿泊客は「3ヶ月前」と比べ増加33.3%、減少55.6%で宿泊客数DIは22.2ポイントとなっている。

白樺湖・蓼科・霧ヶ峰方面は、気温が高く好天に恵まれ行楽客の入り込みが多く大変賑わった。宿泊客は、施設により区々で特色ある企画で宿泊客を伸ばしたところもみられるが、総体では「3ヶ月前」を割り込んでいる。

上諏訪温泉は、7月の集中豪雨の風評被害から徐々に立ち直りつつあり、個人客が幾分増えているが団体客が予定数まで確保できないところもみられ、総体では前年を割り込んだところが多い。

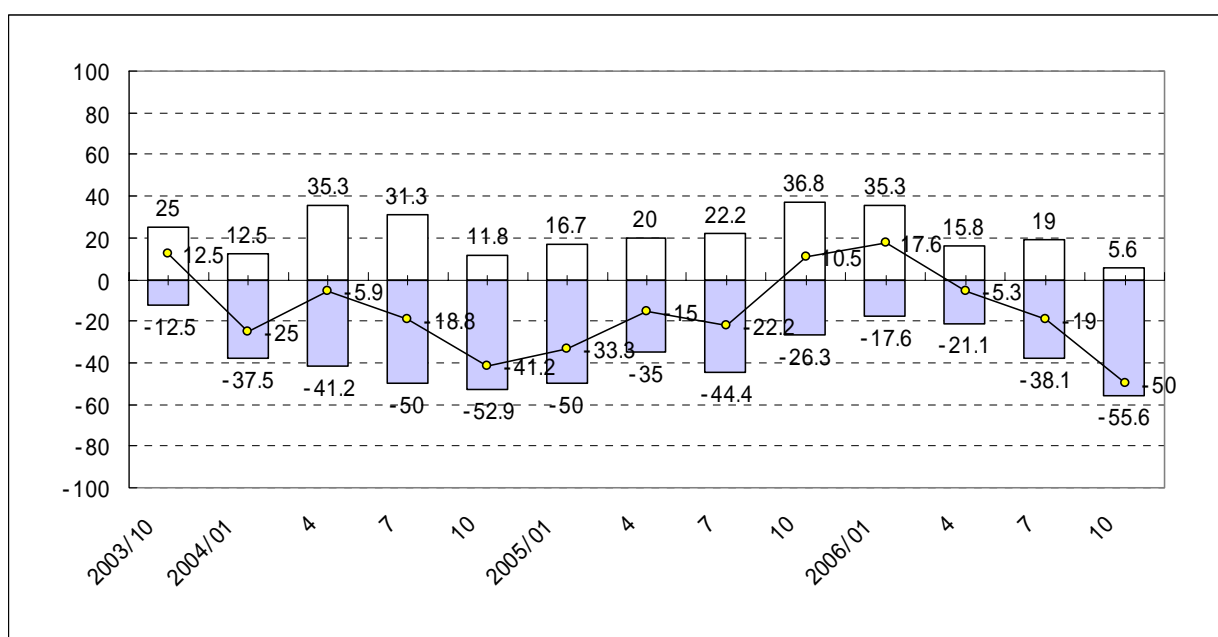
業況、売上、宿泊客

表 - 5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業 況	18	22.2	55.6	22.2	0.0	18	5.6	38.9	55.6	-50.0	18	27.8	33.3	38.9	-11.1
客単価	18	5.6	72.2	22.2	-16.7	18	16.7	50.0	33.3	-16.7	17	5.9	47.1	47.1	-41.2
宿泊客数	18	33.3	11.1	55.6	-22.2	18	11.8	29.4	58.8	-47.1	18	22.2	27.8	50.0	-27.8

「前年同期」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 9



3.建設業

公共工事が少ないなか、新設住宅や工場増設など建築工事は充足したとする事業所がみられるが、土木工事は工事量が少なく建設業総体としては依然厳しい経営環境が続いている。

災害発生後は災害復旧工事など緊急工事が行われている。

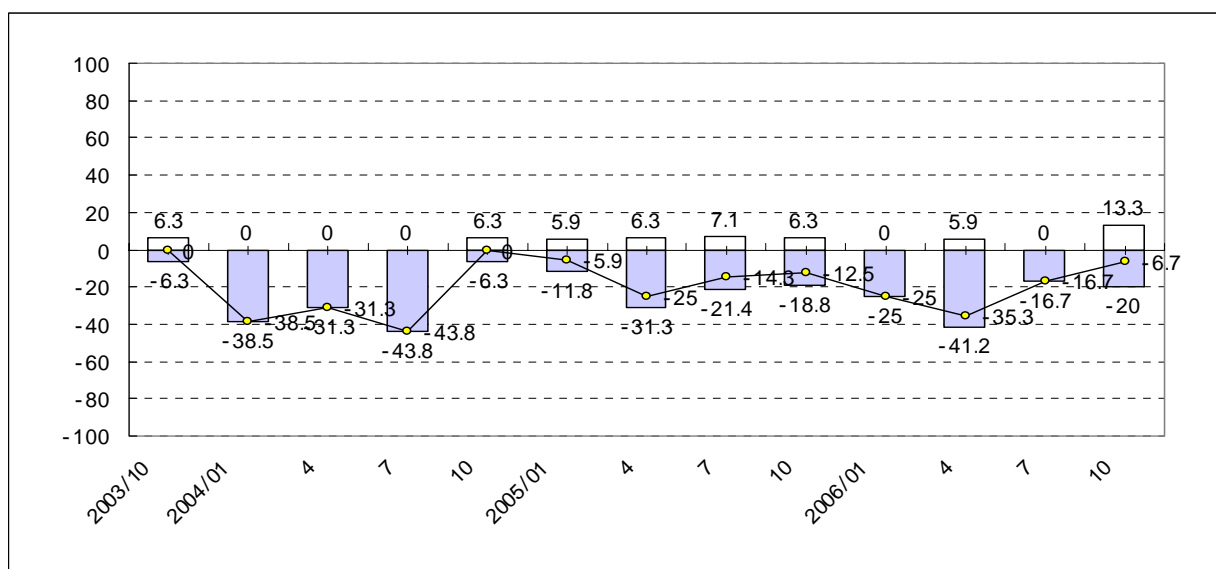
業況、受注状況、外注発注量

表 - 6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業 況	15	13.3	66.7	20.0	-6.7	15	20.0	60.0	20.0	0.0	15	13.3	80.0	6.7	6.7
受注状況	14	21.4	42.9	35.7	-14.3	15	20.0	40.0	40.0	-20.0	15	20.0	53.3	26.7	-6.7
外注発注量	15	20.0	46.7	33.3	-13.3	15	20.0	46.7	33.3	-13.3	15	13.3	53.3	33.3	-20.0

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIの推移

グラフ - 10



4 収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べての収益性DIは、11.8ポイントでマイナス幅が拡大した。

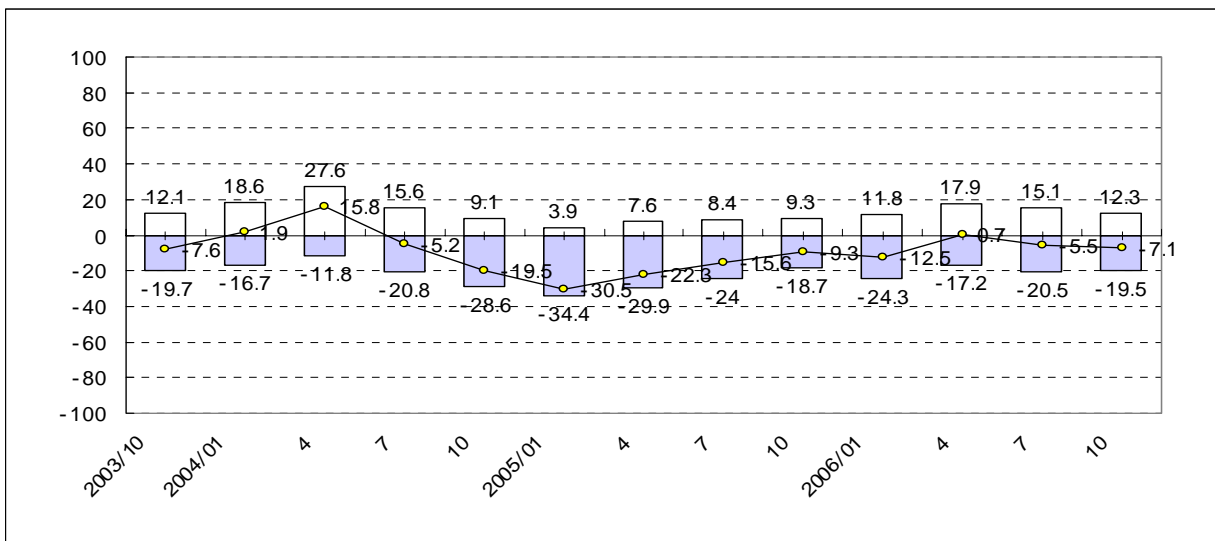
製造業の受注環境にいくぶん蔭りがみられ、原材料高が依然として受注単価に反映されないなどから、「3ヶ月前」と比べ収益性DIは7.1ポイントでマイナス幅が広がり収益性DIからは、地域企業の多くは好調な大企業の景況感とは異なる実態が窺える。

非製造業の収益性DIは26.0ポイントで、第3次産業（商業、観光・サービス業）は依然厳しい状況が続いている。

「3ヶ月前」と比べての収益性DIの推移

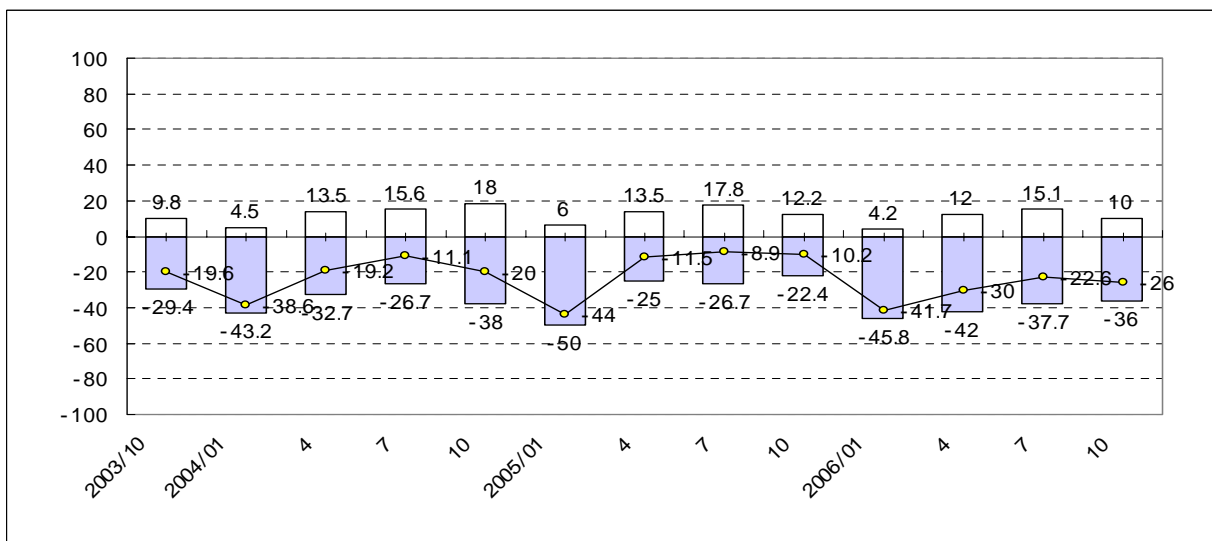
製造業

グラフ - 11



非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）

グラフ - 12



経営上の課題

経営上の課題として、製造業は売上減少・競争激化・受注単価引下げをあげる企業が多く、商業は売上減少・競争激化・人件費、建設業は競争激化・売上減少、観光・サービス業は売上減少・受注単価引下げをあげている。

その他の課題として、製造業では原材料の高騰、即戦力となる人材（技術者）確保をあげる企業が多い。商業では大型店進出による競争激化をあげ、観光サービス業には集中豪雨災害の穴埋めをあげた企業がみられた。

経営上の課題

	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	81	49	11	9	11
単価引下げ	57	40	2	6	8
競争激化	68	46	9	11	2
資金繰り	33	24	1	3	5
人件費	28	17	8	0	2
労働力確保	39	31	5	1	2

- 1.調査期間 平成 18 年 10 月末
- 2.調査内容 「平成 18 年 10 月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後の予想」
- 3.調査方法 アンケート調査及びヒヤリング調査
- 4.対象地域 諏訪地域全域
- 5.業種 製造業、商業（大型店：売り場面積 501 m²以上）、建設業、観光・サービス業
- 6.回答企業数 205 企業
- 7.回答率 68.3%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	225	30	22	23	300
回答数	154	18	15	18	205

諏訪地方主要経済指標

主要指標		実 数	前年同期比
有効求人倍率 【9月】	諏訪公共職業安定所管内	1.26 倍	0.01 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.54 倍	0.14 ポイント
手形交換高【10月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	14,527 枚	1,666 枚
	金 額	19,704 百万円	4,543 百万円
うち不渡り 発生状況	枚 数	0 枚	2 枚
	金 額	0 千円	478 千円
車庫証明取扱件数【10月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		1,345 件	11.5 %
新設住宅着工件数(18.4~18.9月) (諏訪地方事務所管内)		1,158 件	4.05 %